

河川整備計画[県管理区間]の内容と効果 及び事業進捗の状況について

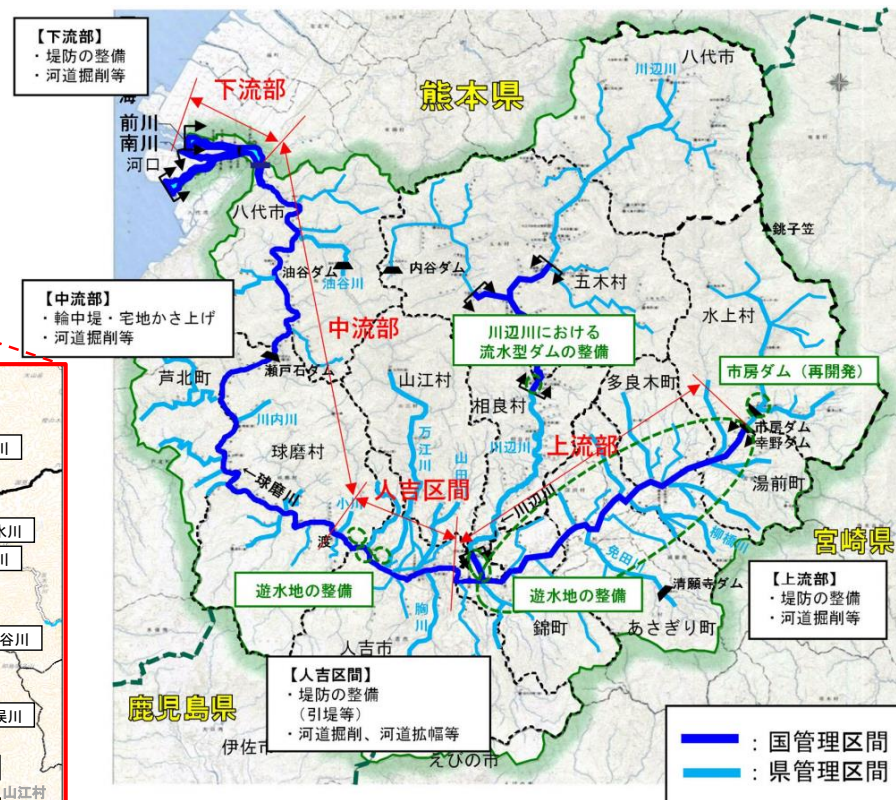
令和6年12月18日



熊本県

■球磨川水系河川整備計画〔県管理区間〕の計画対象区間は図のとおり。（80河川、流路延長432.9km）

【参考】国管理区間における主な治水事業位置図



洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

治水対策の目標

- 令和2年7月豪雨をはじめとする過去の水害の発生状況、気候変動の影響による降雨量の増大、流域の重要度、河川整備の状況等を総合的に勘案し、球磨川水系河川整備基本方針に定められた整備目標に向けて、上下流及び本支川の治水安全度のバランスを確保しつつ段階的かつ着実な河川整備を実施するとともに、**令和2年7月豪雨と同規模の洪水を含む想定し得る最大規模までのあらゆる洪水を想定して、あらゆる関係者が連携し流域全体で実施する治水対策「流域治水」による球磨川流域の強靱化を推進することで洪水氾濫等による災害の防止又は軽減を図ることを目指します。**
- 気候変動による降雨量の増加を考慮（1.1倍）して算出した年超過確率が**概ね1/30規模の目標流量**を安全に流下させることとします。

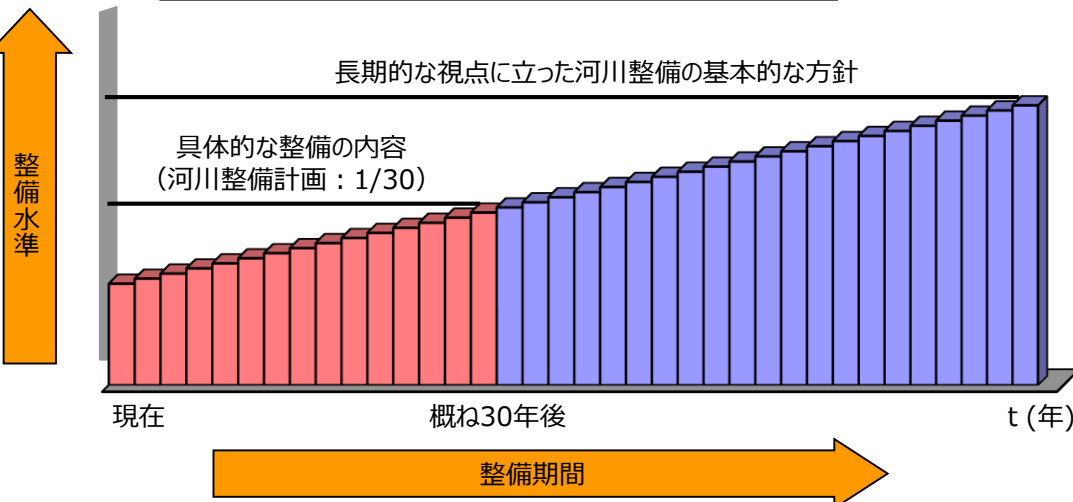
整備計画完了により期待できる効果

この計画に基づく整備を完了することにより、**気候変動を考慮した戦後最大の洪水（令和2年7月豪雨を含む）と同規模の洪水に対し、家屋の浸水防止など、流域における浸水被害を軽減できます。**

球磨川水系河川整備計画【県管理区間】における
段階的な整備目標のイメージ図

長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針

具体的な整備の内容
(河川整備計画：1/30)



【参考】球磨川水系における整備目標

	人吉地点	横石地点
河川整備基本方針	1/80	1/100
河川整備計画【国】	1/50	1/80

令和2年7月豪雨と同規模の洪水に対して、
・本川では、人吉市等の有堤区間にける越水を回避
・支川では、家屋の浸水を防止
など、**浸水被害を軽減する。**

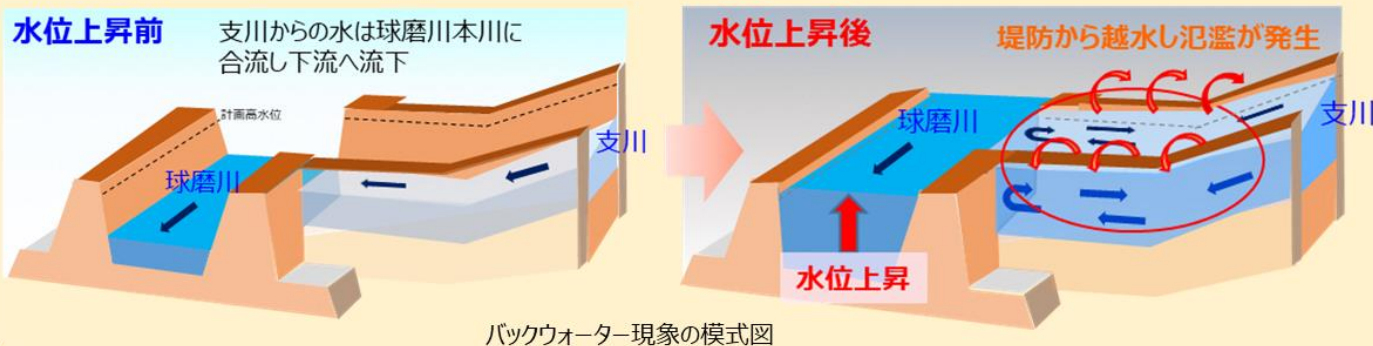
山田川における令和2年7月豪雨による被災状況について

【山田川からの氾濫】

○令和2年7月豪雨では、球磨川本川の水位上昇に伴い、山田川の水が本川へ流下しにくくなり、行き場を失った水で山田川の水位が上昇するバックウォーター現象（※1）の影響により、山田川の合流点付近は水面勾配がほとんどない状態で水位が上昇し、氾濫が発生したものと推定（※2）

（※1）下流側（球磨川本川）の水位変化が上流側（山田川）の水位変化に影響を及ぼす現象のこと。背水ともいう。

（※2）その後、球磨川本川の氾濫も発生し、沿川が広範囲に浸水。



令和2年7月豪雨時の山田川の状況

【堤防護岸の崩壊】

○市街地側に氾濫した水が山田川に戻る際に、水圧によりパラペット型堤防護岸が崩壊したものと推定。一般の方も利用されていた管理用通路が通行止めとなり復旧活動等にも支障



令和2年7月豪雨時の堤防護岸の崩壊状況

中園川(宅地かさ上げ概要)

- 球磨川水系河川整備計画〔県管理区間〕に基づき、球磨村復興まちづくり計画と連携した宅地かさ上げ工事に、令和6年11月から着手。宅地かさ上げ後、公民館（みんなの家）を整備予定。

位置図



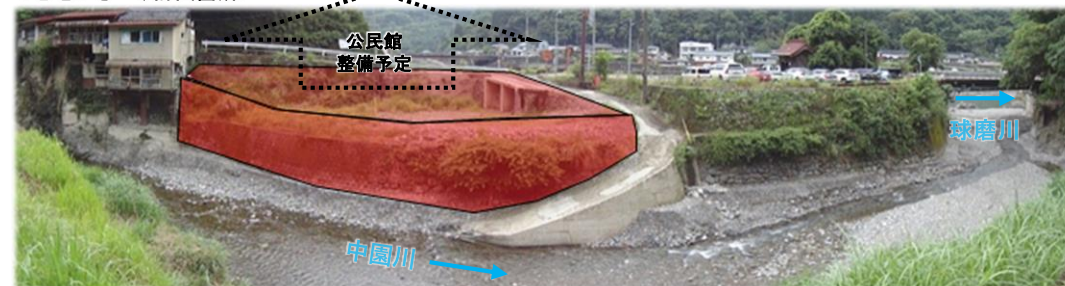
<令和6年12月17時点 現場状況>



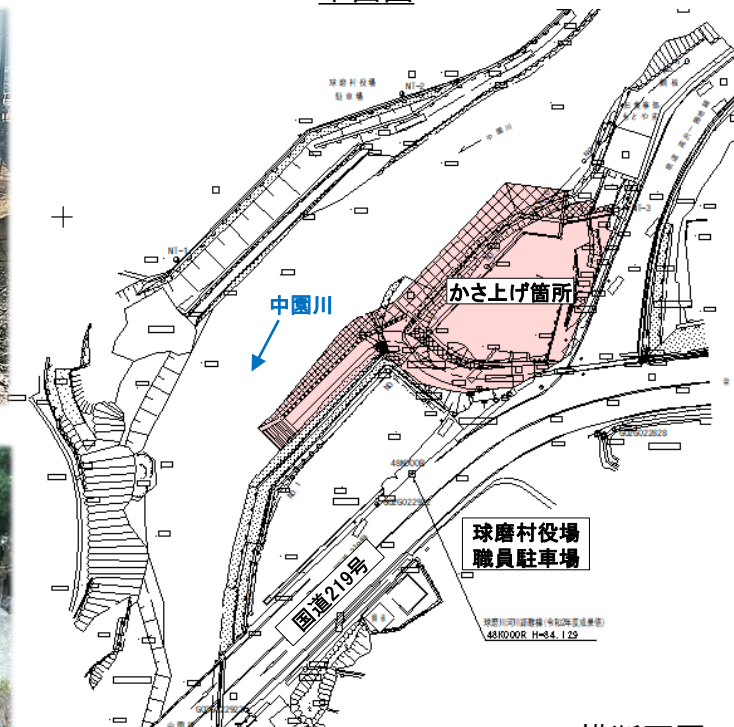
<令和2年7月豪雨 被災直後>



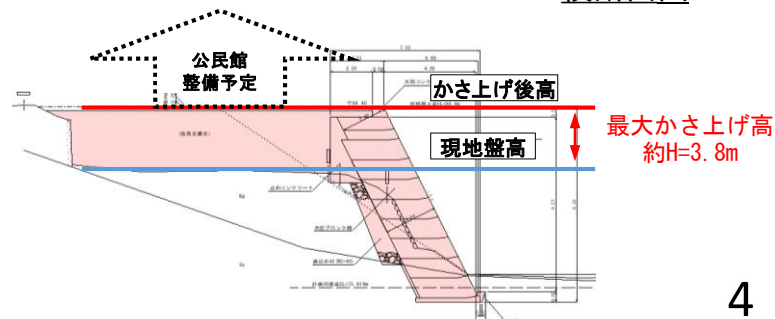
<宅地かさ上げ計画箇所>



平面図



横断面図



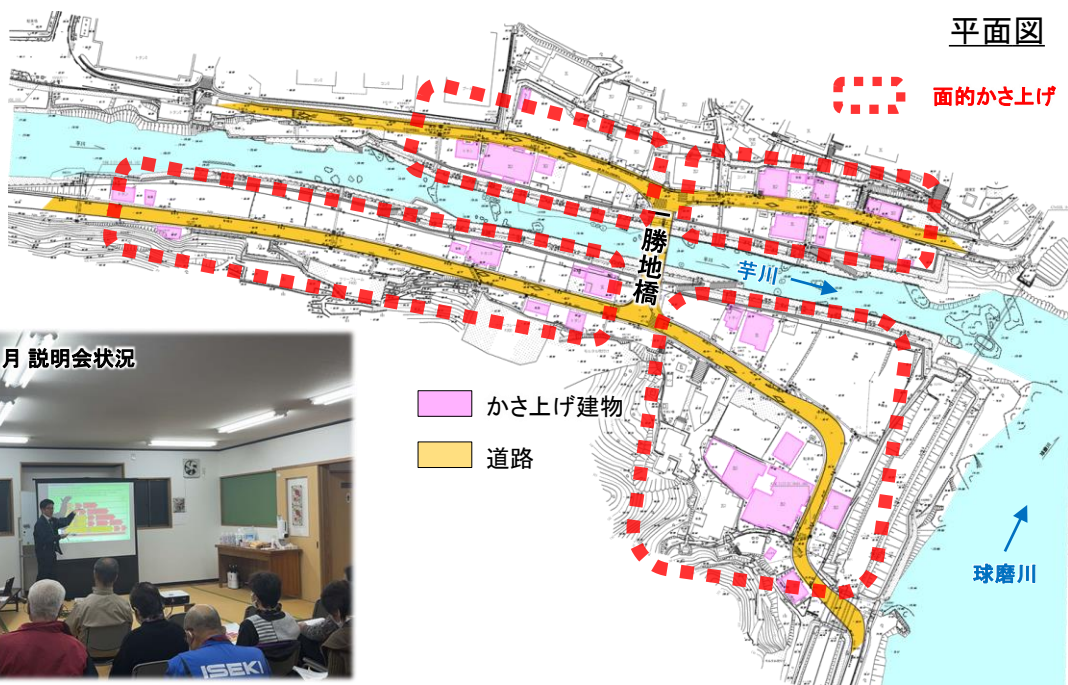
芋川(宅地かさ上げ概要)

- 球磨川水系河川整備計画〔県管理区間〕に基づき、球磨村と連携して面的かさ上げを計画。
令和6年11月に具体的な施工手順についての説明会を実施。

位置図



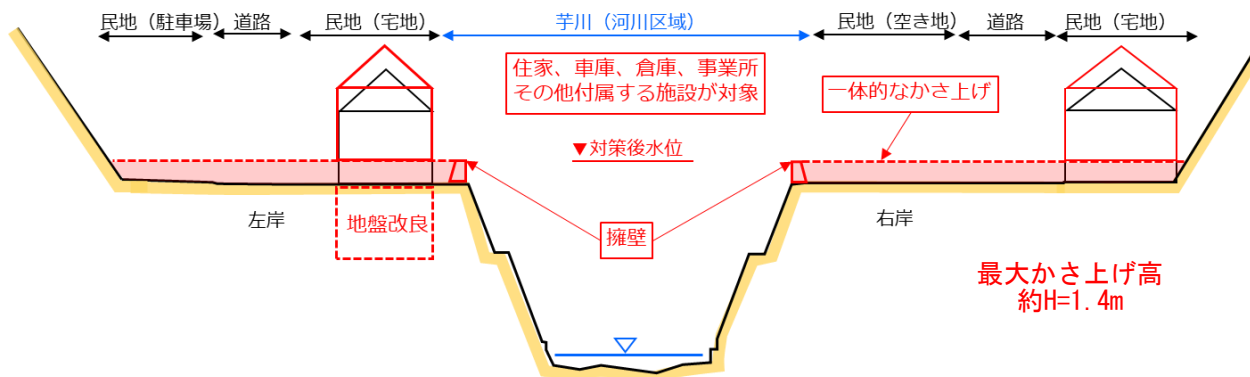
<令和6年11月29日 人吉新聞>



令和6年11月 説明会状況

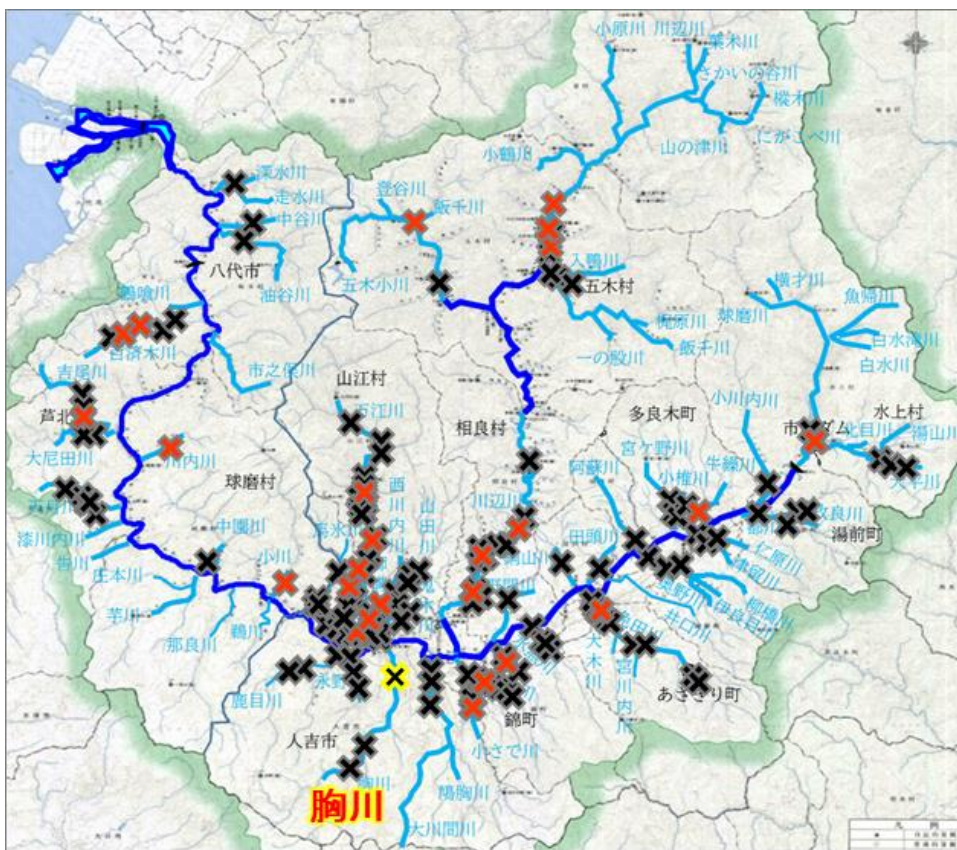


横断イメージ



堆積土砂の掘削状況[県管理区間]

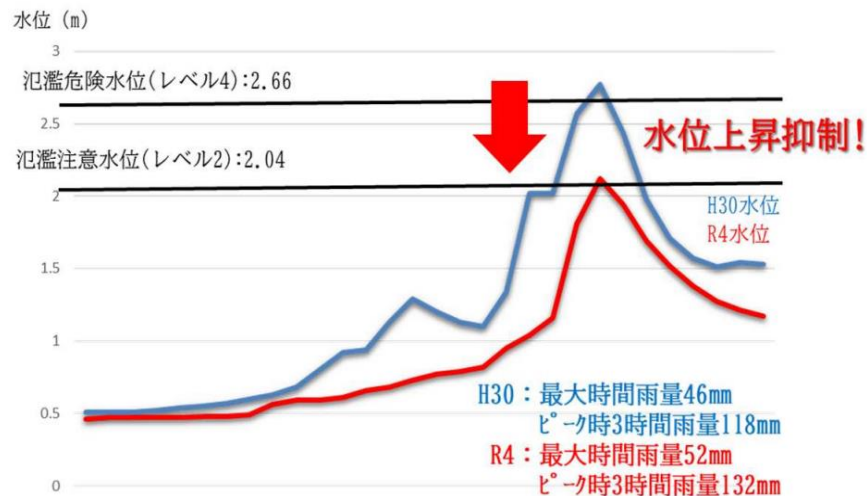
- 県管理河川においては、毎年、出水等により堆積した土砂を次期出水までに撤去できるよう掘削を行っており、令和2年7月の出水から令和6年10月末までに、累計で約144万 m^3 の土砂を撤去。
- **河道掘削実施前後において、同規模の降雨における河川水位を比較したところ、実施前では氾濫危険水位（レベル4）を超過したが、実施後では氾濫注意水位（レベル2）までにとどまり、水位上昇を約60cm抑え、地域の安全を確保。**
- 引き続き、地元のご要望を伺いながら、河川の流下能力の維持を図る。



✕ : 令和2年7月～令和5年5月末までの掘削箇所図
✖ : 令和5年6月～令和6年10月末までの掘削箇所図

球磨川水系胸川の事例

＜同規模の降雨における水位上昇を比較＞

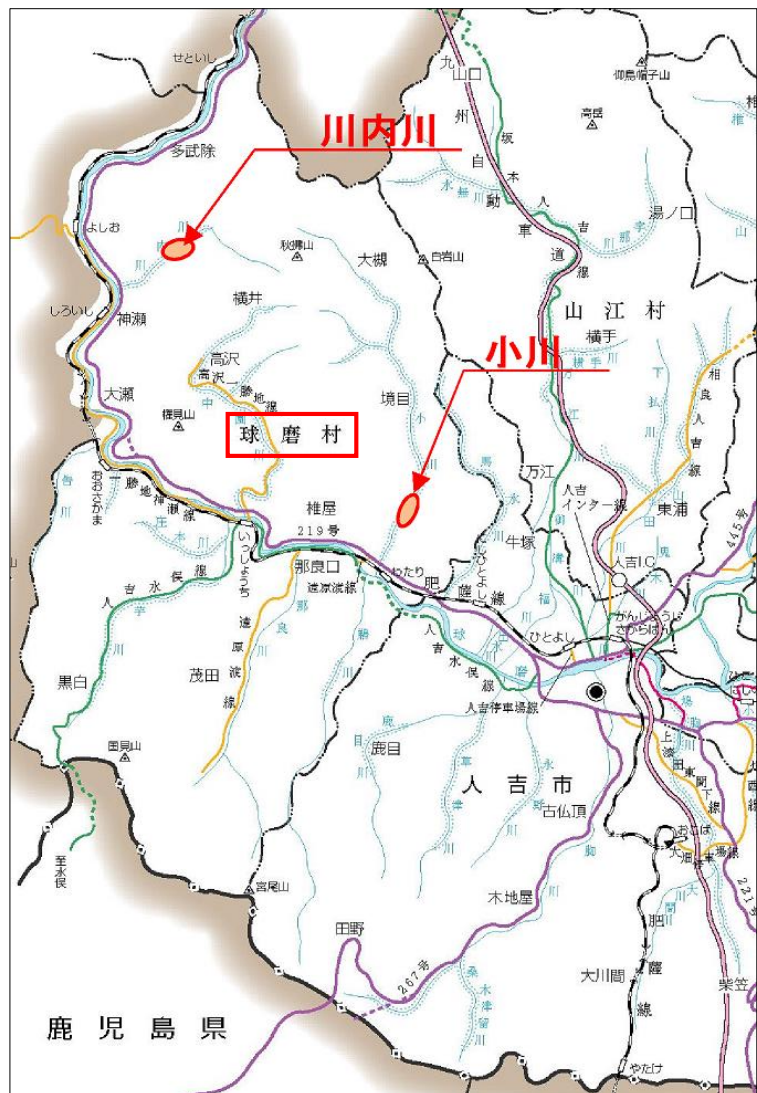


※総務省 緊急浚渫推進事業債 活用事例 (R5.1) より抜粋



堆積土砂の掘削状況(川内川・小川)

- 村内において、令和2年7月の出水から令和6年10月末までに、累計で約5,000m³の土砂を撤去。
- 川内川においては、令和6年度に約1,300m³の河道掘削を実施。
- 小川においては、令和6年度に約1,300m³の河道掘削を実施。



川内川 (球磨村神瀬内)



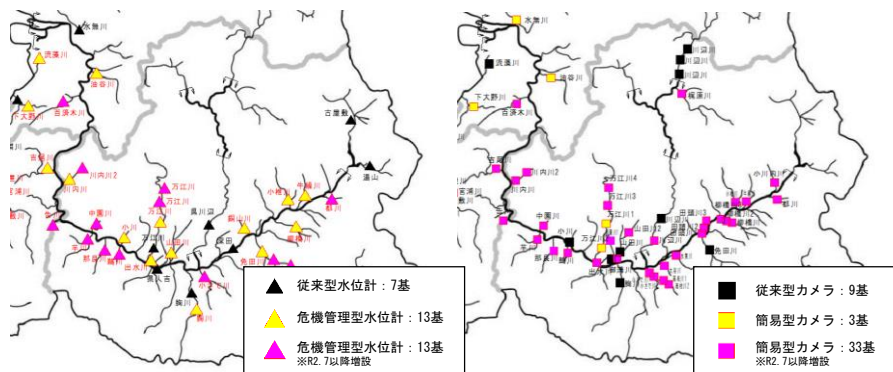
小川 (球磨村渡乙)



住民の円滑な避難に向けた支援

- 住民の円滑な避難の支援に向けて、洪水時の情報を関係機関に提供するため、令和2年7月豪雨以降、水位計13基、河川監視カメラ33基を増設。
- 洪水浸水想定区域図の作成公表を行い、分かりやすく閲覧できるよう、「防災情報くまもと」の改修を実施。

河川監視カメラ映像及び水位情報の発信



水位計位置図（県管理）

河川カメラ位置図（県管理）

- 球磨川流域においては、水位計33基、河川監視カメラ45基を設置済み。令和2年7月豪雨以降に、水位計13基（村内：5基）、河川監視カメラ33基（村内：6基）を増設。

- 川の水位情報（<https://k.river.go.jp>）で河川の状況に関する情報を発信。

<河川監視カメラ映像>



洪水浸水想定区域図の作成・公表

- 想定最大規模（概ね1/1000以上の確率）の降雨による洪水浸水想定区域について、周辺に住宅等の防護対象のある河川を対象とし、令和3年10月までに全ての河川を指定。
- 市町村では、県で作成した洪水浸水想定区域図に、洪水予報等の伝達方法や避難場所等の、洪水時における円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載し、洪水ハザードマップが作成されている。
- 県ホームページ「防災情報くまもと」で、洪水浸水想定区域図をより分かりやすく閲覧できるよう、区域範囲や浸水深等をポップアップ表示する改修を実施。

